② 本品0.2ｇ（0.15～0.24ｇ）を量り、６mol／Ｌ塩酸試液５mLを加え、５分間かき混ぜた後、ろ過し、アンモニア試液を加えて中和した溶液は、カルシウム塩の定性反応③を呈する。

③ 本品20㎎（19.5～20.4㎎）を量り、６mol／Ｌ塩酸試液５mLを加え、５分間かき混ぜた後、遠心分離し、その上澄液を除く。さらに、残留物に水10mLを加えて振り混ぜた後、遠心分離し、その上澄液を除く。この残留物に硫酸銅溶液（１→10）２mLを加え、よく振り混ぜた後、遠心分離し、その上澄液を除く。次に、この残留物に水10mLを加え、振り混ぜた後、遠心分離し、その上澄液を除く。この残留物にアンモニア試液２mLを加え、１分間振り混ぜるとき、濃青色を呈する。

④ 本品0.5ｇ（0.45～0.54ｇ）を量り、６mol／Ｌ塩酸試液10mLを加え、15分間かき混ぜた後、ろ過する。ろ液１mLに水25mLを加えた溶液につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長241～245nmに吸収の極大を示す。

純度試験

① 重金属　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、重金属試験法第２法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20μg／ｇ以下）。

② ヒ素　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、ヒ素試験法第３法により試料溶液を調製し、装置Ａを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（２μg／ｇ以下）。

③ ハロフジノン　本品を乾燥し、その0.5ｇ（0.45～0.54ｇ）を量り、ジメチルスルホキシド50mLを全量ピペットを用いて加え、30分間かき混ぜた後、遠心分離し、この上澄液１mLを全量ピペットを用いて量り、50mLの全量フラスコに入れ、塩酸（１→100）を標線まで加えて50mLとし、試料溶液とする。別に、臭化水素酸ハロフジノン17㎎（16.5～17.4㎎）を量り、塩酸（１→100）を加えて溶かし、500mLの全量フラスコに入れ、更に塩酸（１→100）を標線まで加えて500mLとする。この溶液１mLを全量ピペットを用いて量り、200mLの全量フラスコに入れ、塩酸（１→100）を標線まで加えて200mLとし、標準液とする。試料溶液及び標準液100μLずつを量り、次の条件で、液体クロマトグラフ法により試験を行うとき、試料溶液中のハロフジノンの示すピーク面積は、標準液中のハロフジノンの示すピーク面積以下でなければならない（0.1％以下）。

操作条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：243nm）

カラム：内径４～６㎜、長さ250㎜のステンレス管に充填剤として、オクタデシルシリル化した約５μmのシリカゲルを充填する。

カラム温度：40℃付近の一定温度

移動相：酢酸アンモニウム4.2ｇ（4.15～4.24ｇ）に水約200mLを加えて溶かし、これに酢酸6.4mLを加え、水を加えて1,000mLとする。この溶液700mLを量り、アセトニトリル300mLを加える。

流量：毎分1.5mL